

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990800033		
法人名	社会福祉法人清和会 あんきな家		
事業所名	グループホームあんきな家		
所在地	土佐清水市加久見1464番地279		
自己評価作成日	平成24年7月4日	評価結果 市町村受理日	平成24年9月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、土佐清水市市内の外れにある元小学校を改装した施設の2階にあります。前は太平洋、後ろは山で自然に恵まれた環境であると同時に海拔30メートルを超える高台にあり、河川の氾濫や津波の被害の心配がない恵まれた立地条件にあります。山菜の季節には、つわ露やいたどり、もちの葉を採りに行って料理やお菓子を作ったりしています。また畑も作っております。ご利用者の良い状態とは、生き生きとされている事。という考えのもと、日常は、食事作りや洗濯、掃除等の作業を職員と一緒にしながらご利用者の希望に沿った楽しみを持てるように、外出行事やドライブ、外食等も積極的に取り入れています。併設の他の事業所との交流も盛んで合同の行事も多く交流を楽しんでいます。また、地域の方々が参加するイベント等を通じて地域に溶け込んだ事業所作りを行っています

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3990800033&SCD=320&PCD=39
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成24年8月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、母体法人が経営する小規模多機能ホームやデイサービスセンター等多様な複合施設の中にある。その特徴を活かして昔馴染みの利用者同士の日常的な交流を図り、地域の盆踊りや運動会への参加のほか、法人全体の行事である七草がゆ、納涼祭、三世代交流会等には地域住民に参加してもらおう等、互いに行き来できる関係に努めている。また、週1~2回のドライブでは馴染みの商店での買い物や自宅近辺に行ったり、四季折々の行楽にも積極的に取り組み、これまでの暮らしの継続に努めている。職員は、利用者一人ひとりの日々の暮らしの中での役割を丁寧に見極めて、利用者の力の発揮につなげている。例えば、活動には参加できなくても、いつも笑顔で過ごされる方には、和やかな雰囲気作りの役割があるとらえる等、一人ひとりの安住の地を目指して歩み続けており、今後も期待できる事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有するため、月に1回のグループホーム全体会で理念の唱和を行い、自己反省を行っている	事業所独自の理念を掲げ、毎月の職員会で唱和し、気になる点や理念の具体的な考え方を話し合い、共有や意識付けを行っている。日々のケアの場面では、言葉かけや態度等、その都度注意し合って実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、地域のイベントや施設の行事を通じて地域の方々と交流している。又、地域の清掃活動のボランティアもやっている	町内会に加入し、地域の盆踊りや運動会などに参加している。地区の祭りは、事業所の庭まで御神輿が乗り入れ、事業所の納涼祭や七草がゆ、三世代交流会等には、地域住民の参加がある等、事業所と地域の相互交流が来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に事業所の説明会等随時行い、介護相談を行うなど、認知症の理解が深まるよう取り組んでいる		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回併設の小規模多機能型事業所と合同で行い、事業所の報告に参加委員からの意見や質問が出され、運営に生かしている。毎回議事録を作成し、また話された内容をホーム便りや家族会の際に伝えている	事業所からの報告や、外部評価、目標達成計画の報告をもとに、質疑応答や意見交換が行われている。毎月の事業所だよりでは、運営推進会議の開催日時や会議内容の概要を報告し、会議録は、閲覧できるようにしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者のケアや事業の運営について相談できる関係が出来ている。また、複合型施設としての地域貢献など助言や協力を得ている	運営推進会議を通して事業所の実状を伝えたり、随時に電話で相談することを通じて、協力関係を築くように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設の考えの基本として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。またそのリスクについても其の都度家族に相談するようにしている。	具体的な禁止行為の他、利用者が不快を感じる行為についても随時話し合い、身体拘束をしない方針で取り組んでいる。利用者一人ひとりの外出傾向と特徴を見極めながら、見守りや同行等の対応をしている。また、転倒・転落に至った利用者の欲求を探り、事故予防の介護の実践を心がけている。リスクについては、随時、家族と話し合っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止の研修に参加し、研修内容の報告を受けて職員間で共有し、虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受けており、状況に応じて職員間で話し合いの機会を持ち、利用者の権利を守る支援に取り組んでいきたいと考えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や其の解除に当たっては、利用者、家族に管理者が説明を行い、十分納得していただいた上で署名していただくようにしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御意見箱を入り口に設置している。家族からのご意見には、其の都度納得していただけるように改善や対処に当たっている。2ヶ月に1回家族会を開催し、その際にはご家族同士が意見交換できる場を作り交流の機会を持っていたい	利用者については、日々傾聴し意向を汲みとる対応を心掛けている。家族については、電話や面会時、2カ月毎の家族会等を通して意見を聞き、マニュアルに沿って改善経過や結果を説明する等、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する職員の意見は、月1回の全体会や問題や疑問が生じた際、随時聞き取りを行い、説明や意見を反映して改善できるように努めている。	毎月の職員会のほか、随時に意見やアイデアを聞き、その都度話し合って運営に反映させている。職員の交替や新規採用時は、利用者と職員の馴染みの関係に配慮しており、新規利用者の受け入れについては、職員で相談する等、職員と共に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等について定期的に把握し、職員による自己診断も行い、職務意欲の向上に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己啓発のため研修情報をファイルして提示し、また、職場内研修や外部の研修の機会を設け参加を促している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所と意見交換を行う機会を持ち、サービスの向上につなげている。また、市内のグループホームが集まって合同の運動会を開催し、交流を深める取り組みを行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集や傾聴、観察により早期に利用者スタッフの信頼関係を構築し、落ち着いて穏やかに過ごしていただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族の意向、要望を聞き、入居後もご家族との信頼関係を築き、協働して支援していくように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況や家族の意向等を踏まえ、必要なサービスや、今後必要と思われるサービスについて意見交換を行っている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者の様子を敏感に察知するように努めながら、職員も日常生活全般を共に行うものとしての関係を築き支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に情報交換を行い、本人の要望や暮らしぶりなどを共有すると共に、家族の協力を得ながら支援している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内の他事業所の昔なじみの利用者と面会してゆっくり過ごす時間が持てるようにしたり、地元に戻ったり、思い入れのある行きたい場所に外出できるように支援している。また、外出先での知人との再会は大切に、関係の継続を図っている	よく行っていた商店の利用や自宅周辺のドライブ等、利用者の希望に沿って支援している。また散歩の途上、同一敷地内のケアハウスを訪問し、馴染みの利用者と面会する等、関係が途切れないように努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者間の会話の架け橋となり、孤立することなく過ごせるように対応している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、電話連絡や手紙などにより事業所の近況報告などを行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と共に過ごすことで思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者は、家族や知人からの情報収集を行い、表情を見ながら意向を推し量る様にしている。また、耳の聞こえない利用者に対しては筆談で話し、表情や態度で思いを察し、本人本位の支援が出来るように努めている	日々の関わりの中で思いや暮らし方の希望を聞いたり、意向を汲み取るように努めている。また、自然な生活リズムが最大限保てるよう、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話し合いや、その他の関係先からの情報により、昔から本人が日課にしていることや仕事、趣味などを把握し、ケアにつなげている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、引継ぎノートを活用して把握と情報の共有に努めている。其の日あった様子などもタイムリーに記載し、把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者、家族の意見も聞き、担当制による職員のアセスメントやモニタリングを踏まえカンファレンスを行っている。介護計画は6ヶ月を基本に見直しているが、状況の変化がある時はカンファレンスや担当者会を行い其の都度見直すようにしている	利用者、家族の気づきや要望等を聞いて、介護計画を作成している。モニタリングは6カ月毎、再アセスメントは1年ごとに行っているが、利用者の状況に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個人記録を整備し、職員間で情報を共有すると共に、意見交換を行いながら介護計画や日々の実践に生かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の個々のニーズには、必要性があると判断した場合は即座に対応するようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が豊かで安全な暮らしを楽しむことができるよう、地域の自治体の行事などには積極的に参加するようにしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院の受診が主であるが、利用者家族の希望するかかりつけ医を受診している。通院介助は事業所が担当しているが、家族にも同行をお願いしている。受診結果については、家族に連絡すると共に職員間でも共有している	利用者や家族の希望に沿ったかかりつけ医や専門医への受診を支援している。市内の受診は、職員又は家族が介助し、市外については家族が介助している。いずれの場合も、家族と情報を共有するとともに、全職員に受診結果を伝達し、適切な医療を受けられるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、事業所に看護師は配置していないが、病院とは蜜に連絡をとり、必要時には直ちに受診を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、退院後も医療機関とは常に連絡をとり、利用者の状態の把握に努め、安心して治療できるように努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看護師を配置しておらず、状態が重度化の方向に向かった場合には施設での対応は困難であるため、早期発見と早期受診で重度化の防止を図るようにしている。現時点で看取りは行っていない事。状態が悪化した場合は連携している病院に入院となるが、退院後の受け入れは相談に応じることを契約時伝えるようにしている	看取りはしない方針であり、契約時に、「看取り(重度化)について」の説明書に沿って、事業所が対応し得るケアについて説明をしている。入退院時は、関係機関・職種と連携すると共に、入院中の相談にも応じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が普通救命講習を終了しており、急変時には、管理者の指示のもと即対応できるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災避難訓練と3ヶ月に1回の自主訓練で年間6回の防災訓練を行っている。また、運営推進会議後委員に参加をいただき防災訓練を行ったり地域の協力体制を確立するための取り組みを行っている	年2回、消防署の協力を得て法人全体の防災訓練を行っている。事業所独自の避難訓練は、運営推進会議の委員の協力を得て行い、地震発生時の対応方法のマニュアル化等の意見をもらっている。備蓄は昨年より法人全体で準備する方針であり、事業所では飲料水と米を準備している。	地域の避難場所として地域の防災訓練に参加協力するとともに、事業所の避難訓練に地域住民の参加・協力が得られるよう、継続的に取り組まれることを期待する。また、非常階段を使う避難訓練や、備蓄についても早急に検討することを望みたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	事業所全体で行う理念の周知の取り組みでも守れているかの確認と自己反省を促し、日常のケアの中で、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応が徹底できるよう取り組んでいる	遮蔽スクリーンの使用や声かけなどを注意し合い、本人に恥ずかしい思いをさせないように配慮している。また、個人情報、他者に聞こえないようにするとともに、年長者としての尊厳や誇りを損ねないよう、一人ひとりをより深く、チームで理解し取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、さりげなく希望や要望を把握するように努め、利用者がその人らしい生活を送られるように自己決定できる場面作りを行うなど支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切にし、体調や気分に応じた環境を整え、声かけのタイミングを工夫するなど、その人らしく過ごせるよう努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の行きつけの理髪店に行ったり、訪問理容により整容している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	全利用者の食事摂取量は良好で残される量は少なく職員と一緒に楽しい食事風景が見られている。下ごしらえや味付け等も利用者と共に。盛り付けや配膳、後片付けも利用者と一緒にしている	献立や食材の配達は業者への依頼であるが、主食は、利用者の希望に応じて赤飯等に変える工夫をしている。職員は、下ごしらえや調理の味付け、食卓の準備と片づけなどを利用者と一緒に、同じ献立や持参の弁当等で利用者と一緒に食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士が考えた食事を提供している。食事量と水分量の把握をしている。水分や食事の形態についても利用者の摂取状況を考慮して必要量を確保できるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけして口腔ケアを行っている。状況に応じて介助しながら支援している		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全利用者がトイレでの排泄を行っているが、失禁のある利用者については、排泄パターンを考慮し、排泄チェック表をチェックしながらトイレ誘導を行い、排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンや排泄のサインを全職員で共有し、全ての利用者がトイレで排泄できるよう支援している。尿とりパット等は、排泄量の多い時間帯や時期を見定め、最小限の使用ですむように、また、極力、布のパンツが維持できるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて、水分量や食べ物の工夫や運動など、主治医の指導を得ながら支援している。又、週1回ヤクルトの訪問販売をお願いしており、希望者にはヤクルトやヨーグルトでの便秘解消も図っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の体調を考慮しながら利用者の希望に沿って入浴を行うようにしている。入浴を拒む場合も生活のリズムや習慣を把握して声かけをすることで楽しく入浴できるように図っている	利用者の体調や希望に沿って、午後の1時半から4時半までの職員体制が十分な時間帯に支援している。入浴を拒む利用者には、誘い方や時間をずらす等工夫し、概ね2～3日に1回は入浴できるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日を通して、本人の希望や体調を考慮しながら空調管理を行い、本人が好きな時に横になったり、就寝できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者が使用している薬の理解や、服薬の変更があった場合は、業務日誌や申し送りノートにより、職員が確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作り、掃除、洗濯、調理等利用者の得手、不得手を把握し、日常生活の中で、好きなことや、楽しみごとの場面作りに取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、ドライブ等の外出の機会は多くもてるように支援している。利用者から希望があれば外出するようにしている。また、地域のイベントなどがあれば積極的に参加している	利用者の希望に沿って、買い物やドライブ、近隣の散歩や併設のケアハウスへの面会等の交流を楽しんでいる。年間行事では、地域のイベントや法人全体の行事への参加、その他、外食、花見、ブドウ狩り等四季折々の行楽に、歩行困難な方も一緒に出かけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は管理者が管理しているが、家族の了解のもと利用者が所持している場合もある。利用者自身が支払いをする時は、職員が見守り支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ家族に電話できるよう随時対応している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、毎月作業レクで季節の壁飾りを作成し飾ることで季節感を出すようにしている。また壁には行事の写真をはり見ただけのようにしている。随時香をたいたり、空調や照明を利用者の意向に沿い快適になるように配慮している	広々とした空間に、食堂、居間、畳コーナーがあり、壁面には手作りのカレンダーや利用者が作った作品を展示している。居室ドアの周囲の壁は、レンガ風やコンクリート風等居室毎に変え、それぞれに違った我が家の雰囲気を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの畳コーナーやソファで利用者がそれぞれの空間を作り、日常生活の音を聞きながら一人で過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた家具などを置き、また懐かしい思い出の写真なども飾られている。家族の協力で模様替えなども行われている。ベッド周りの整備や空調管理をして快適に過ごせるようにしている	これまでの暮らしで使い慣れた椅子やタンス、整理棚、冷蔵庫、テレビ等が持参され、利用者それぞれの思いのある居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、専門の方に助言をいただきながら介護。福祉用具を購入するようにしている。廊下などには既存の手すりのほか、状況に応じて手すりなどを追加整備している		

ユニット名:

あんきな家

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				